

木更津市エコイベント開催指針



令和8年4月1日

1 背景・目的

本指針は、本市が掲げる、2050年までに二酸化炭素排出実質ゼロを実現する「ゼロカーボンシティ宣言」を踏まえ、その実現に向けた具体的な取組の一つとして策定するものです。また、本市が取り組む「オーガニックなまちづくり」の理念でもある、環境負荷の少ない暮らし方・価値観の普及とも方向性を同じくしています。

対象となるのは、本市が主催、共催または実行委員会方式で実施する各種イベントです。これらのイベントについて、環境配慮の取組状況をチェックし、その結果を「きさエコ認定」の認定レベルによって格付けすることで、取組の“見える化”と推進を図り、市民への普及啓発につなげます。

また本指針は、令和8年3月に改定された「第3次木更津市環境基本計画」に掲げる「環境負荷を低減するサステナブルなイベント運営の推進」という取組を具体化する位置付けを持つものです。

2 対象

本市が主催、共催、または実行委員会方式により開催し、市民・事業者・団体等が参加するイベント※1を基本対象とします。

また、本市が後援するイベントについても、任意の取組として本指針に基づき活用することができます。

※1:イベント

本指針では、催し、講演会、展示会、コンサート、各種大会、祭りなど。

3 取組手順

(1)取組内容に沿ったイベントの準備

まず、計画しているイベントについて、規模(人数)、場所、内容、使用物品、想定されるごみや電力使用など、環境負荷につながる要素を整理します。

そのうえで、本指針を参考に、実施可能な環境配慮の取組を検討します。

具体的には、「5 エコイベントの取組内容」を確認し、イベントの特性に応じて実施できる項目を選定しながら、チェックリストを作成して準備を進めます。必要に応じて、関係部署への相談も行ってください。

なお、環境に配慮する取組の実施可否については、環境以外の観点(安全性、運営上の制約、感染症対策、参加者の状況等)や社会情勢を総合的に勘案して判断します。

(2)「きさエコ認定」における認定レベルの決定と情報発信

「5 エコイベントの取組内容」に基づき作成したチェックリストについて、実施予定とした取組項目の割合(計画取組率)を算出します。

この計画取組率に応じて「きさエコ認定」の認定レベルが決まり、本市より認定レベルに対応した認定画像のデータを提供します。提供された認定画像は、イベントチラシ、会場掲示物、市ホームページ、SNS 等で使用し、当該イベントが環境に配慮していることを、参加者や市民に分かりやすく PR するために活用してください。

認定画像の表示により、イベントの取り組み内容を“見える化”し、環境配慮行動の促進につながることを目的としています。

「きさエコ認定」の認定レベルについて

<p>★項目を実施した場合</p> <p>★項目の具体的な取組内容</p> <p>・カーボンオフセット(Jクレジット制度など)を活用し、イベントによる CO₂排出の相殺を図る</p>	<p>PLATINA プラチナ</p> 
<p>計画取組率 100%</p> <p>※★項目は除く</p>	<p>GOLD ゴールド</p> 
<p>計画取組率 80%以上</p> <p>※★項目は除く</p>	<p>SILVER シルバー</p> 
<p>計画取組率 60%以上</p> <p>※★項目は除く</p>	<p>BRONZE ブロンズ</p> 

(3)取組内容の周知

認定レベルに基づくPR((2)参照)とは別に、イベントを適切に運営するためには、主催者内部で環境配慮の取組内容を明確に共有することが必要です。

そのため、イベントの開催にあたっては、実施する環境配慮の取組を、実施計画書や運営マニュアル等に具体的に記載するとともに、スタッフ、出展(店)者、及び関係者へ事前に周知します。

周知内容には、参考として次のような項目を含めてください。

【参考】

- 実施する環境配慮の取組項目(例:ごみ削減、再エネ利用、プラ削減等)
- スタッフ・出展(店)者・参加者それぞれが行う具体的な行動
- 会場でのごみ分別方法や回収場所
- 「きさエコ認定」における認定画像の説明

特にスタッフ・出展(店)者については、事前説明会、メール連絡、マニュアル配布等により、徹底した周知を行ってください。

(4)環境に配慮したイベントの運営

イベント当日は、事前に選定した「5 エコイベントの取組内容」に沿って、スタッフ全員が統一した運営ができるよう、実施状況を随時確認しながら運営します。

天候や気温、来場者数、会場の混雑状況など、その時々状況を踏まえ、安全性を最優先しつつ、可能な範囲で環境配慮の取組を柔軟に行ってください。

(例:高温時は熱中症防止を優先し、予定していた取組を調整する等)

また、参加者に対しても、当該イベントが「きさエコ認定」を受けたイベントであることを会場掲示やアナウンス等で積極的に周知し環境配慮への理解と協力を呼びかけます。

(例:ごみ分別の案内、マイボトルの推奨等)

(5)評価・点検

イベント終了後は、チェックリストや当日の運営記録をもとに実施状況を振り返り、チェックリストの実績欄に入力したうえで、実施できた点や改善すべき点を整理します。

評価・点検の内容は、次回以降のイベントでより効果的な環境配慮を行うための重要な資料となるため、主催者内部で共有し、翌年度以降の改善につなげてください。

また、チェックリストの提出が必要なイベントについては、忘れずに所定の期限までに提出してください(次項参照)。

なお、計画と実績が異なり認定レベルが下がった場合であっても、ペナルティ等を科すものではありません。評価結果は、次回以降のイベントにおける環境配慮の取組をより効果的に進めるための参考として活用してください。

※詳細については、別途作成している

「木更津市エコイベント マニュアル」をご覧ください。

4 チェックリストの提出

(1)対象となるイベント

●提出が必須のイベント

市が一定以上関与するイベント(学校行事を除く)のうち、下表に該当するものを対象とします。

参加者数については、(ア)～(ウ)の方法で参加者数を想定してください。

なお、(ア)～(ウ)の方法でも、算定が困難な新規イベント等は提出が任意のイベントとします。

(ア) 定員を設定している場合:当該定員数

(イ) 過去に開催実績があるイベント:直近の参加実績人数

(ウ) 会場規模等から推計可能な場合:会場の収容人数等を基に算定した人数

市の関与	想定参加者数
主催	30人以上
共催	200人以上
実行委員会	200人以上

●提出が任意のイベント

上記の「提出が必須のイベント」以外でも、環境に配慮した取組をPRしたい場合「きさエコ認定」の認定画像の活用を希望する場合は、任意でチェックリストを提出することができます。

(市の後援の有無は問いません。)

(2)チェックリストの提出方法

イベントの準備段階において、チェックリストの様式のうち「計画」欄に必要事項を入力し、指定の保存場所へ提出してください。また、イベント終了後1か月以内に、「実績」欄に実施内容を入力してください。

(3)チェックリストの結果の公表

「木更津市エコイベント」の取組を広く周知し、他の主催者の参考とするため、特に環境配慮の取組が優良であったイベントや、先進的・特徴的な取組事例については、市ホームページ等で紹介する場合があります。

これにより、取組内容の“見える化”を進め、今後の「木更津市エコイベント」の実施促進につなげます。

環境配慮として取組むチェックリスト

イベント名			
開催期間		物販の有無	
参加者人数 (任意)		飲食の有無	
主催者		イベント形式	
部課名		担当者・スマホ内線	

！可能な範囲で取組を！
 本チェックリストは、イベントの計画から終了までの環境配慮行動を掲載していますが、イベントの規模や内容によっては、うまく当てはまらないケースもあるかもしれません。反対に、ここに書かれていないことでも、実行できる環境配慮行動があるかもしれません。
 どんなイベントでも、できる範囲で少しでも環境に配慮できないかと考えるきっかけにいただければと思います。

【入力方法】
 本イベントにおける環境配慮の取組状況について、【計画】【実績】欄に以下の記号を全て入力してください。
 ○：実施する/実施した
 △：（【実績】欄）一部実施した
 ×：実施しない/実施しなかった
 /：該当しない（本イベントでは実践する環境にない）

取組分野1.ごみの減量とリサイクル推進

番号	具体的な取組内容	計画	実績
①	○参加者へごみの持ち帰りを呼びかける →会場掲示やアナウンス、チラシ等により、来場者へごみの持ち帰り協力を促します。		
②	○会場に設置するごみ箱は、分別が分かりやすい工夫する →表示の大きさ・色分け・例示（「紙」「プラ」「ペットボトル」等）を明確にし、来場者が迷わず適切に分別できるよう配慮します。		
③	○マイボトルの持参を推奨する →広報物や会場アナウンス等で、持参の呼びかけを行い、使い捨て容器の削減につなげます。		
④	○チラシやポスターは必要枚数を精査し可能な限りデジタル媒体を活用する →ウェブ掲載、SNS発信、QRコード活用など、紙媒体を使わない案内方法を検討します。		
⑤	○装飾品は繰り返し使用できるものを使用する →イベントごとに廃棄物を増やさないう、再利用可能な資材やレンタル品の活用を推奨します。		
⑥	○物品販売ではマイバッグ持参を呼びかけ、ポリ袋の使用を抑える →売り場での掲示や声かけを行い、使い捨て袋依存を減らします。		

取組分野2.省エネルギー・省資源の推進

番号	具体的な取組内容	計画	実績
①	○イベントで使用する電力や燃料を、電気自動車などの再エネ供給源から確保する →EV（電気自動車）を活用し、発電機の使用を抑えることでCO2排出を低減します。		
②	○会場の電力使用を抑えるため、自然光が入りやすい場所を選ぶ、またはレイアウトを調整する →照明の使用時間や必要量を減らし、省エネにつなげます。		
③	○イベントで提供する飲食物は、可能な範囲で市内事業者から調達する →輸送距離を短くすることで、物流に伴うCO2排出の削減に寄与します。		
④	○イベントに関係する車両には、アイドリングストップやエコドライブの実施を依頼する →搬入車両・スタッフ車両など、関係者への周知を事前に行います。		
⑤	○印刷物を使用する場合は、環境配慮型の素材（再生紙・FSC認証紙・植物油インキ等）を選択する →紙やインク的环境負荷を減らします。		
★	○カーボンオフセット（J-クレジット制度など）を活用し、イベントによるCO2排出の相殺を図る →排出削減が困難な分については、オフセットにより環境負荷を軽減します		

取組分野3.交通手段における環境配慮への推進			
番号	具体的な取組内容	計画	実績
①	○環境負荷の少ない交通手段の利用を参加者へ推奨する →広報物や事前案内で、公共交通機関、自転車、徒歩などの低炭素な移動手段の利用を呼びかけます。		
②	○公共交通機関が利用しやすい会場の選定に努める →駅・バス停からのアクセスや路線の本数を踏まえ、できる限り公共交通利用が可能な会場を検討します。		
③	○公共交通の利用が難しい場合は、来場者へ乗り合わせの協力を事前に周知する →駐車場案内や入場案内に合わせて、乗り合わせの呼びかけを行い、車両台数の削減につなげます。		
④	○主催者や関係者が車両を使用する場合は、低公害車の利用やエコドライブの実施を依頼する →搬入搬出車やスタッフ車両に対し、アイドリングストップ等の省エネ運転を周知します。		
⑤	○徒歩・自転車などの低炭素な移動手段を活用したイベント企画に取り組み、その魅力を発信する →サイクリングイベント、まち歩き企画など、地域とつながる低炭素な取り組みを積極的に取り入れ、来場者に紹介します。		
取組分野4.自然環境及び周辺環境			
番号	具体的な取組内容	計画	実績
①	○イベントにより騒音・振動・悪臭が発生する可能性がある場合は、周辺環境への影響に十分配慮する →スピーカーの向きや音量調整、作業時間帯の検討など、会場周辺の生活環境に配慮した運営を行います。		
②	○イベント終了後は、会場や周辺道路にポイ捨てごみがないか確認し、必要に応じて回収する →スタッフで見回りをを行い、地域に迷惑が生じないよう、清掃を徹底します。		
③	○生態系や景観に配慮し、可能な限り自然環境に手を加えない会場運営を行う →樹木・植物・水辺などへの影響を避け、設営位置や動線を調整するほか、自然環境を損なわない資材・レイアウトを心がけます		
取組分野5.普及啓発			
番号	具体的な取組内容	計画	実績
①	○参加者や関係者に対して、イベントが環境に配慮して実施されていることを周知する →事前案内、チラシ、ホームページ等で、本イベントがエコイベントである旨を分かりやすく伝えます。		
②	○会場内では、掲示やリーフレット等により、実施している環境配慮の取組内容を来場者に提示する →ごみ削減、再エネ活用、交通対策など、取り組み項目が見える化し、来場者が理解しやすいよう工夫します。		
③	○イベント終了後に振り返りを行い、次回開催時の改善につなげる仕組みを整える →スタッフミーティングや記録表を活用し、実績と課題を整理して、継続的な環境配慮の向上を図ります。		
④	○参加者が環境配慮を学習・体験できる仕掛けを企画・運営に取り入れる →体験コーナー、展示、ワークショップ等を設け、環境行動への理解促進や行動変容につなげます。		
★項目は含まない	【①】○の数	0	0
	【②】△の数	0	0
	【③】○+△+×の数	0	0
	【(①+②×0.5)÷③】取組率(%)	#DIV/0!	#DIV/0!
★項目のみ	★項目○の数	0	0
	★項目△の数	0	0
	★項目○+△+×の数	0	0
	★項目の取組率	—	#DIV/0!
きさエコ認定の認定レベル		判定結果	
プラチナ	★項目○の数(ピンクのセル)1つ以上	すべての項目を入力してください	
ゴールド	計画取組率(黄色のセル)100%	すべての項目を入力してください	
シルバー	計画取組率(黄色のセル)80%以上	すべての項目を入力してください	
ブロンズ	計画取組率(黄色のセル)60%以上	すべての項目を入力してください	

5 エコイベントの取組内容

取組分野1.ごみの減量とリサイクル推進



【具体的な取組内容】

- ①参加者へごみの持ち帰りを呼びかける
→会場掲示やアナウンス、チラシ等により、
来場者へごみの持ち帰り協力を促します。
- ②会場に設置するごみ箱は、分別が分かりやすいよう工夫する
→表示の大きさ・色分け・例示(「紙」「プラ」「ペットボトル」等)を明確にし、
来場者が迷わず適切に分別できるよう配慮します。
- ③マイボトルの持参を推奨する
→広報物や会場アナウンス等で、持参の呼びかけを行い、
使い捨て容器の削減につなげます。
- ④チラシやポスターは必要枚数を精査し可能な限りデジタル媒体を活用する
→ウェブ掲載、SNS 発信、二次元コード活用など、
紙媒体を使わない案内方法を検討します。
- ⑤装飾品は繰り返し使用できるものを使用する
→イベントごとに廃棄物を増やさないよう、
再利用可能な資材やレンタル品の活用を推奨します。
- ⑥物品販売ではマイバッグ持参を呼びかけ、ポリ袋の使用を控える
→売り場での掲示や声かけを行い、使い捨て袋依存を減らします。



取組分野2.省エネルギー・省資源の推進



【具体的な取組内容】

- ① イベントで使用する電力や燃料を、
電気自動車などの再エネ供給源から確保する
→EV(電気自動車)を活用し、発電機の使用を抑えることで
CO₂排出を低減します。
※詳しくは「電気自動車マニュアル」をご覧ください

 - ② 会場の電力使用を抑えるため、自然光が入りやすい場所を選ぶ、
またはレイアウトを調整する
→照明の使用時間や必要量を減らし、省エネにつなげます。

 - ③ イベントで提供する飲食物は、可能な範囲で市内事業者から調達する
→輸送距離を短くすることで、物流に伴うCO₂排出の削減に寄与します。

 - ④ イベントに関係する車両には、
アイドリングストップやエコドライブの実施を依頼する
→搬入車両・スタッフ車両など、関係者への周知を事前に行います。

 - ⑤ 印刷物を使用する場合は、
環境配慮型の素材(再生紙・FSC 認証紙・植物油インキ等)を選択する
→紙やインク的环境負荷を減らします。
- ★カーボンオフセット(J-クレジット制度など)を活用し、
イベントによるCO₂排出の相殺を図る
→排出削減が困難な分については、オフセットにより環境負荷を軽減します。



取組分野3.交通手段における環境配慮への推進



【具体的な取組内容】

- ①環境負荷の少ない交通手段の利用を参加者へ推奨する
→広報物や事前案内で、公共交通機関、自転車、徒歩などの低炭素な移動手段の利用を呼びかけます。
- ②公共交通機関が利用しやすい会場の選定に努める
→駅・バス停からのアクセスや路線の本数を踏まえ、できる限り公共交通利用が可能な会場を検討します。
- ③公共交通の利用が難しい場合は、来場者へ乗り合わせの協力を事前に周知する
→駐車場案内や入場案内に合わせて、乗り合わせの呼びかけを行い、車両台数の削減につなげます。
- ④主催者や関係者が車両を使用する場合は、低公害車の利用やエコドライブの実施を依頼する
→搬入搬出車やスタッフ車両に対し、アイドリングストップ等の省エネ運転を周知します。
- ⑤徒歩・自転車などの低炭素な移動手段を活用したイベント企画に取り組み、その魅力を発信する
→サイクリングイベント、まち歩き企画など、地域とつながる低炭素な取り組みを積極的に取り入れ、来場者に紹介します。



取組分野4.自然環境及び周辺環境



【具体的な取組内容】

- ① イベントにより騒音・振動・悪臭が発生する可能性がある場合は、
周辺環境への影響に十分配慮する
→スピーカーの向きや音量調整、作業時間帯の検討など、
会場周辺の生活環境に配慮した運営を行います。

- ② イベント終了後は、会場や周辺道路にポイ捨てごみがないか確認し、
必要に応じて回収する
→スタッフで見回りを行い、地域に迷惑が生じないように、清掃を徹底します。

- ③ 生態系や景観に配慮し、可能な限り自然環境に手を加えない
会場運営を行う
→樹木・植物・水辺などへの影響を避け、設営位置や動線を調整するほか、
自然環境を損なわない資材・レイアウトを心がけます。



取組分野5. 普及啓発



【具体的な取組内容】

- ①参加者や関係者に対して、イベントが環境に配慮して実施されていることを周知する
→事前案内、チラシ、ホームページ等で、本イベントがエコイベントである旨を分かりやすく伝えます。
- ②会場内では、掲示やリーフレット等により、実施している環境配慮の取組内容を来場者に提示する
→ごみ削減、再エネ活用、交通対策など、取り組み項目を見える化し、来場者が理解しやすいよう工夫します。
- ③イベント終了後に振り返りを行い、次回開催時の改善につなげる仕組みを整える
→スタッフミーティングや記録表を活用し、実績と課題を整理して、継続的な環境配慮の向上を図ります。
- ④参加者が環境配慮を学習・体験できる仕掛けを企画・運営に取り入れる
→体験コーナー、展示、ワークショップ等を設け、環境行動への理解促進や行動変容につなげます。



6 参考資料 環境用語解説

本資料では、本指針に登場する環境関連用語の解説を紹介しています。企画段階やチェックリストの作成時にぜひ参照してください。

アイドリングストップ

車が停車しているときにエンジンを停止することで、無駄な燃料消費や排出ガスを減らす取り組み。渋滞中や信号待ちでの実践が推奨されています。

エコドライブ

発進・加速・減速をゆるやかにするなど、環境にやさしく燃費を向上させる運転方法。CO₂排出削減や交通安全の向上にもつながります。

FSC 認証紙

適切に管理された森林から生産された木材を使用していると認められた紙。FSC（森林管理協議会）の厳しい基準に基づき、持続可能な森林利用を促進します。

再エネ(再生可能エネルギー)

太陽光、風力、水力、地熱、バイオマスなど、自然の力から繰り返し得られるエネルギー。化石燃料に比べ環境負荷が小さいのが特徴です。

省エネ(省エネルギー)

電気・ガス・ガソリンなどのエネルギーを、必要なときに必要な分だけ使い、ムダをなくすこと。

この取り組みによって、使うエネルギーが減り、CO₂の削減やごみの減量にもつながります。

Jクレジット

温室効果ガスの削減・吸収量を国が認証し「クレジット」として取引できる制度。森林整備や再エネ導入により生じた削減量を活用できます。

植物油インキ

石油由来ではなく、大豆油などの植物油を主成分としたインキ。環境負荷が低く、リサイクル適性が高い印刷材料として普及しています。

低公害車

走るときに出る排気ガスやCO₂が少ない、自動車。
環境への影響が小さいように作られている車で、次のようなタイプがあります。

(例)

- 電気自動車(EV):排気ガスを出さない
- ハイブリッド車(HV):ガソリンと電気を効率よく使う
- 燃料電池車(FCV):水素で走り、走行中の排気ガスがほとんどない
- 天然ガス自動車(CNG 車):ガソリンより有害物質の排出が少ない

木更津市エコイベント開催手順 PDCA サイクル

継続的改善

PLAN(計画)

- ① イベントの内容に合わせて、環境配慮の行動計画をチェックリストに記載する
- ② 運営体制や手順を決定する

ACTION(見直し)

- ① 取組内容を見直し、次回以降のイベントで改善する

DO(実施・運用)

- ① イベント関係者や市民へ計画内容を周知する
- ② 計画に従って、イベントを実行する
- ③ 来場者に協力を呼びかける

CHECK(点検・是正)

- ① チェックリストに実績を記載する

木更津市 環境部 環境政策課

電話:0438-36-1442

FAX:0438-36-5734

E-mail: kankyou@city.kisarazu.lg.jp